

intercession

インターセッション

知っておきたいキリスト教のことば (148)

執り成し とりなし

わたしたち聖公会の礼拝の中には、「代禱」というものを会衆と共に祈りする時間があります。これは自分のためだけではなく他の人や世界のことを心に覚え、神さまに対して懇願する祈りのことです。このように誰かのために神さまの恵みを祈ることを、「執り成し」と言います。

旧約聖書にはアブラハムがソドムのために(創 18:16~33)、モーセが金の子牛の鑄像を造ってしまったイスラエルの民のために(出 32:30~35)、サムエルがイスラエルの民のために(サム上 7:7~9)、それぞれ執り成したという記述があります。

そしてイザヤ書には、苦難の僕(しもべ)が罪人(つみびと)たちのために執り成すという預言が書かれます。この苦難の僕こそ、十字架につけられるイエス様のことです。

ヨハネによる福音書 17 章には、「大祭司の祈り」と呼ばれるイエス様の執り成しの祈りが書かれています。またご自分のことを 3 度も知らないと言うペトロのためにも祈り(ルカ 22:32)、さらにご自分を十字架につける者のために祈るのです(ルカ 23:34)。

またイエス様は天に昇られた後も神の右におられ、わたしたちのために執り成してくださいます(ロマ 8:34)。

それではイエス様に倣うわたしたちは、どうすべきなのでしょうか。イエス様は、「しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい(マタイ 5:44)」と命じられました。誰かのために祈ることは、キリスト者の義務です。しかも自分と敵対している人であっても、そのようにしなさいと言われているのです。

お互いに神さまに対して執り成しを祈り合う。そのような教会であることを願いましょう。

次回は「奴隸」です。お楽しみに。



「ソドムとゴモラ」

ピーテル・パウル・ルーベンス

(1577~1640年)

多くの人の過ちを担い
背いた者のために執り成しをしたのは
この人であった。

(イザヤ書 53 章 12 節 c)

